

余白は、上下 28 ミリ、左右 22 ミリ

タイトルは 12 ポイントの**太字ゴシック体**
中央寄せ

口頭・ポスター用フォーマット

報告要旨の書き方

— 読みやすい報告要旨作成のために —

国際開発大学 国際開発
○ 締切 守* 湘南 俣

氏名は 10.5 ポイントの**太字ゴシック体**
連名の場合、報告者に○印をつける。
中央寄せ

キーワード：期限厳守、フォーマット厳守、誤字脱字チェック、要旨明白、自己責任

報告に関連するキーワードを5つ記載

1. はじめに

日本は 1960 年代の高度経済成長期に激甚な産業公害が発生した。しかし、1970 年に開会された公害国会で公害防止に関する国の法制度が整備され、その後、産業公害は急速に改善されてゆく。とりわけ顕著に **本文は 10.5 ポイントの明朝体、あるいはこれに順ずる書体** 濃度は 1960 年代末期から急速

戦前から 1950 年代にかけて、工業都市では石炭の燃焼に伴う降下煤塵が市民を悩ませたが、エネルギー源が石炭から石油に転換されるに伴い、煤塵問題は公害対策が実施されないうちにおおむね解決する。しかし、 **口頭報告は 4 ページ以内、ポスター報告は 2 ページ以内を厳守。これを超えたものは掲載しないことがあります。** 業に対

本報告では、1960 年代から 1970 年代にかけて、大阪市、横浜市及び北九州市が実施した硫黄酸化物削減策について、それがなぜ効果を上げたのかについて検討する。諸国等では、公害防止に関する制度が整備されている一 **本文の区分（太字）は、学会誌に準じる。** による大気汚染が深刻化している地域も各所に見られる。 **1.** ならば、これら諸地域でなぜ環境改善が進まないのか、 **(1)** かりになると考えられるからである。 **①** **(2)** **②**

2. 講演要旨集の意義

(1) 情報の発信

20 世紀前半まで石油価格は石油メジャーによって統 **英文の場合には、** 見さ **1.** ぬが **1.1** 量制 **1.1.1** 期に **電子メールで提出の場合は、最後に PDF 変換。一方** 主し **「フォントを埋め込む」という設定で作成。** 意同とは逆に、産業界は高価なガスに供給が不安定な国内炭を見切り、安価かつ安定的に供給される上、液体であるために取り扱いが容易な石油へ燃料転換を始めた。1960 年代初頭になると、主要エネルギーは石炭から石油に変わっていた。

ところが、国内で利用されるようになった燃料の多くは硫黄分を多く含む中近東産の重油であったため、工業都市では 1960 年代初頭から硫黄酸化物による大気汚染が顕在化した。厚生省は公害対策の必要性を早くから認識し、1953 年には全国の大気汚染、水質汚濁、騒音、振動について発生数と被害人数の調

少なくとも 1 名の報告者の連絡先を 1 ページ目の下部に記載

* [連絡先] 〒123-4567 千代田区飯田橋南 1-1-1 国際開発大学国際協力学部 締切守
Tel: 03-1234-5678, Fax: 03-1234-5679, E-Mail: shimekiri@time.limit.com

ページ番号は入れないで下さい。